

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic English for the Second Year I		
英文授業科目名	Academic English for the Second Year I		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 電子工学科 知能機械工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	松原 好次		
居室	東1-807		

公開E-Mail	授業関連Webページ
matsubara-k@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題： 急速なITの発達が私たちの社会や生活に与えている影響は甚大である。そのため、科学・技術に関する問題を社会から切り離して考えることはできない。この授業では、理系の学生にとって興味を持つような「科学と社会」というテーマを扱ったエッセイを読み、その構造（論理的展開の仕方）の把握に努める。次に、リーディングで把握した論理的展開法をライティングに応用して、エッセイを書くことにつなげる。</p> <p>(b) 達成目標： 本科目の達成目標の1つは、論理的な読み方を通して logical thinking の態度を養うことである。換言するならば、英語のパラグラフやエッセイの構造を把握することによって、書き手がどのような論理で書いているかを読みとる力の養成である。もう1つの達成目標は、論理的な読み方を応用して、論理的な書き方を修得することである。つまり、自分の考えを読み手に効率よく伝えるには、どのように書けばよいかを、論理的な読み方の延長線上に位置づけて体得することである。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
Academic Written English I & II, Academic Spoken English I & II

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】

教科書：

石谷由美子、スザンヌ・エンブリー著『Outlook on Science and Technology—構造で読む自然科学エッセイ』
(南雲堂)

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容：

第1回 パラグラフ・リーディングとは何かを学ぶ。

第2回 パラグラフ・リーディングからライティングへの移行について学ぶ。

第3回～第15回 英文の構造（論理展開の仕組み）をリーディングで把握したうえで、ライティングに応用する。論理展開の仕組みとは、例えば以下のような構造を指す。

（1）まず意見・結論を示し、次に理由を明示して正当性を裏づけ、結論に導く。

（2）まず理論・仮定を提示し、その後で実験方法を説明したうえ、実験結果の報告・解釈を述べる。

（3）トピックの提示に続いて賛成・反対を明示し、その後に理由を付し、結論に導く。

（4）データを提示した後、具体的に説明し、そのデータから何がわかるか、なぜそのような結果になるのかを述べて、結論に導く。

（5）その他（比較・対照、手順・過程、分類、定義、時間的順序など）。

第16回 期末試験

(b) 授業の進め方

エッセイの全体像把握に力点を置くと同時に、「書く」技法のディテールもおろそかにせず授業を進める。特に、日本語を母語とする学習者が陥りやすい間違いを指摘する。具体的には以下のとおり。

(1)音読を含む「読む」作業のなかで、エッセイの構造（論理の展開の仕方）を把握する。その際、機能表現・つなぎ表現がどのように使われているかを確認する。各レッスンのエッセイ読解には予習が不可欠。

(2)上記の構造を利用して、与えられたトピックでエッセイを「書く」。各授業のポイントに関する課題は授業終了時に提出することを原則にするが、次の授業時に提出する課題とする場合もある。

(3)よくある間違いを指摘する。その際、エッセイの構造に関する間違いだけでなく、英語を書く技法のディテールに関するものにも注意を向ける。

(4)書いた英文を発表する作業のなかで、「話す・聞く」の基礎作りをする。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 成績評価方法：

演習課題の評価点（70%）+ 期末試験の評価点（30%）

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

* 毎授業時の演習課題で、論理的展開法に則した英文（パラグラフ・エッセイ）が書けていること。

* 期末試験で、本科目の達成目標に達する英文が書けていること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】
火曜日 12:15～12:45

【学生へのメッセージ】
「論理構造」を手がかりに英語を読んだり書いたりすることによって、リーディング、ライティング双方に新たな意欲が湧いてくることを期待します。

【その他】